

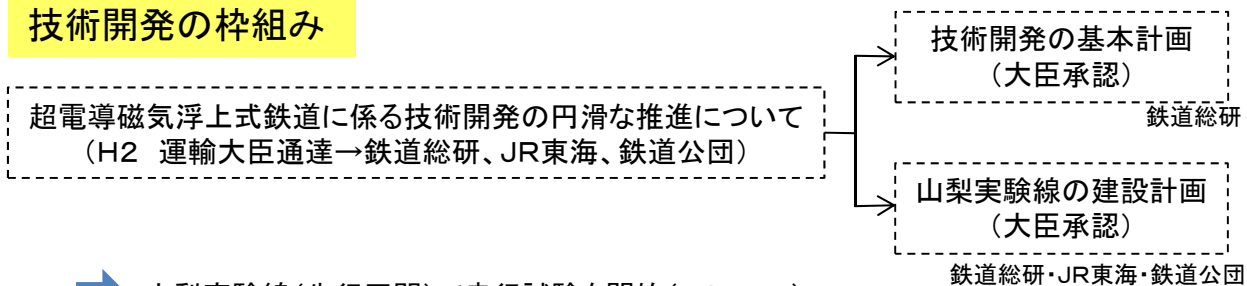
超電導リニア技術開発の経緯

●経緯

技術開発の目標

- 高速度性 : 営業最高速度500km/h(実験線最高速度550km/h以上)
- 輸送能力・定時性 : ピーク時間当たり1万人程度(片道)
- 経済性 : 採算性を踏まえたシステムの経済性を確立

技術開発の枠組み



▶ 山梨実験線(先行区間)で走行試験を開始(H9. 4~)

実用技術評価委員会の提言(H17. 3)

- ・ 実用化の基盤技術が確立したと評価
 - ・ 今後の課題
 - ①更なる長期耐久性の検証
 - ②メンテナンスを含めた更なるコスト低減
 - ③営業線適用に向けた設備仕様の検討
- ⇒
- ・ 平成17年度以降、概ね5年間、先行区間での走行試験を継続
 - ・ 山梨実験線全線を実用レベル仕様による走行試験のために建設

実用技術評価委員会の評価取りまとめ(H21. 7)

- ・ 超高速大量輸送システムとして運用面も含めた実用化の技術の確立の見通しが得られており、営業線に必要な技術が網羅的、体系的に整備され、今後詳細な営業線仕様及び技術基準等の策定を具体的に進めることが可能となったと評価
 - ・ 今後の課題
 - ①更なるコスト低減等に有効な開発(高温超電導磁石等)を継続し、より良い営業線仕様に向けてレベルアップしていくための技術開発を継続する。
 - ②詳細な営業線仕様、技術基準、運営マニュアル等の策定を具体的に進める。
- ⇒
- ・ 平成25年8月末より、山梨実験線全線にて、車両や推進コイル等について実用化仕様を最終検証するための走行試験を実施

他の交通機関に対して一定の競争力を有する超高速大量輸送システムとして実用化の技術を確立することを目指す。